# 年頭のご挨拶

日本包装管理士会
会長　山田 孝志

明けましておめでとうございます。

令和になって最初の正月です。皆さんはどのように過ごされましたことでしょうか? 新年早々から仕事をしていた人には申し訳ありませんが、カレンダーの並びが良く、年明け後5日までの長い休暇をのんびりと過ごしていました。

今年の干支は子年で、十二支が一巡して始まりの年です。東京オリンピックが56年ぶりに開催される年です。景気の先行きは予想が付きませんが良いことがいっぱいの年であるように、そして鼠算式に経済も発展することを期待したいと思います。

さて、昨年は天皇陛下と皇后陛下がウェディング以来のオープンカーでパレードする姿をTV中継で見ていて、平和な日本を感じていました。しかし、日本の至る所で自然災害に見舞われ、東京を直撃した台風19号は関東から東北にかけて甚大な被害をもたらしました。異常気象は今後も続くと予想され、自然災害は日本全国いつでもどこでも起きるものと言われるようになり、安心・安全に慣れた一人として、身を守ることの大切さを改めて考える年でした。

近くの河川が危険水位になると緊急速報が携帯に届き、河川の水面を映すカメラ情報を携帯やPCの画面で見て個々に現況を把握できるようになりました。もし、このまま増水して氾濫したらどうするか？準備する時間を与えてくれます。その後水位が下がる様子もカメラのライブ映像で確認してひと安心です。IT技術と情報システムの発展に感謝です。

☆

包装技術の分野では環境問題に取り組む企業が増えて、新しい技術や新素材、リサイクルの方法が研究されています。海洋汚染の問題はプラスチックが悪いのではなく、使っている人が便利さを優先して使った後の始末を考えてこなかった代償が今になって起きているところです。省エネもひと昔前は「暗い、暑い、寒い」でガマンを強いられましたが、近年は、「快適な暮らしはそのまま」にエネルギーを節約して環境に配慮するという時代に様変わりです。同じように、食品や製品の保存・保護に包装材を便利に使いながら、「使用後は捨てる」ではなく、分別して、リサイクルを考慮して、環境に配慮する時代になりました。

包装管理士の皆さんは率先してその実践を自ら行い、周知し、その輪を広げていけば、環境問題の改善に協力しつつ、包装業界の未来に向けた活動につながると思います。日本包装管理士会は環境と包装をテーマにその活動を応援していきます。

今年も会員の皆さんとご家族のご多幸、そして所属する企業の発展を祈念して新年のあいさつと致します。

## 《INDEX》

特集：お祝い　中部支部50周年／本部だより ---------- 2
日本包装管理士会 選定　2019年包装界・10大ニュース ---------- 4
支部だより ---------- 5

Institute of Packaging Professionals, Japan

PACKAGING INFORMATION
包装技術者の連携と協力をめざす

日本包装管理士会 会報
No.128

# ipp news

ipp news
2020年2月6日発行
編集人／道明　誠
発行／日本包装管理士会
東京都中央区築地4-1-1
TEL 03-3543-9250

# 令和 人々が心寄せ合う

## あけましておめでとうございます。

新たな年、新たな時代が始まりました。「大化」以来284番目にあたる「令和」。「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という意味を込めた元号として発表されました。日本包装管理士会は、包装管理士同士お互いが敬愛の念を抱き活動していくこと、これが創設以来の理念になっているかと思います。お互い助け合いながら新たなIPPを築いてまいりましょう。本年もよろしくお願い申し上げます。

副会長・関東支部長　古平 篤（25期）

「2020年包装界合同新年会」椿山荘にて

IPPメンバーによる集合写真

## 本部だより

### 包装４団体共催によるFANUC工場視察

副会長　道明 誠（23期）

R1.12.13（金）包装4団体共催（日本包装コンサルタント協会、日本包装専士会、技術士包装物流会、日本包装管理士会）による初の包装技術研修会が行われました。参加者は9名。ファナック株式会社では、ロボットがロボットを製作するラインなどを見学しました。今回の包装4団体による協同企画は価値あるものとなりました。

ファナック展示棟前で集合写真

# 祝 50周年

## 中部支部の皆様　おめでとうございます。

**【IPP中部支部創立50周年記念祝賀会】**

IPP中部支部は1969年の創立から50周年を迎え、10月18日（金）にメルパルク名古屋において、「創立50周年記念祝賀会」を開催しました。岡部智支部長の挨拶に続き、第１部：記念講演会では、元中日ドラゴンズの選手で現在は野球解説者としても活躍されている鹿島忠様を講師にお招きして、「現代野球～過去未来は…」と題し、ドラフト指名時のエピソードや現役時代の裏話などを交えて、野球界のこれまでの歴史とこれからの展望などについてご講演いただきました。

岡部支部長のあいさつ

鹿島様のご講演

ストラックアウト抽選会記念写真

JPI越野専務理事による乾杯

第２部前半の記念式典では、IPP本部の山田孝志会長とJPI中部支部の齊藤光次支部長から来賓祝辞をいただいた後、功労者表彰として支部長歴任者である倉知真治様・岡部智様、特別表彰として運営委員10年以上の貢献者である吉沢知宏様・三浦幸雄様、同じく中部支部の運営委員６年以上の貢献者である若松賢治様・原田隆雄様へ、感謝状と記念品の贈呈が行われました。式典の最後には、JPI本部やIPP北海道支部および東北支部などから頂戴した祝電の披露と、中部支部50周年の活動内容を取りまとめたリーフレット「創立50周年の軌跡」の紹介が行われました。

後半の祝賀会は、JPI本部の越野滋夫専務理事の乾杯で幕を開け、来賓としてご参加いただいたIPP中部支部の初代支部長で、第１期包装管理士でもある石川末雄様をはじめとする歴代支部長に加え、先の講演会で講師として登壇いただいた鹿島忠様などにもご協力いただいて大いに盛り上がった「ストラックアウト抽選会」や、50周年の歴史を秘蔵の写真で振り返るスライドショーの上映などが、歓談の合間の余興として行われました。多くの会員や親団体のJPI中部支部の会員もご招待し、第54期新包装管理士のほか、歴代支部長や運営委員OBの方もご参加くださり、各所で昔話や思い出話に花が咲きました。参加者の方々には、50周年を記念して作成したリーフレット「創立50周年の軌跡」とともに、「IPP中部50th」の文字が入った特製の飴を記念品としてお持ち帰りいただき、名残の尽きないままお開きとなりました。

祝賀会での歓談風景

50周年を振り返るスライドショー

# 日本包装管理士会選定　「2019包装界・10大ニュース」

**1.コンビニのおにぎり全品の包装をバイオマスプラスチックに**

ある大手コンビニエンスストアは、おにぎり全品（年間およそ22億7千万個）の包装を、植物由来の原料を配合したバイオマスプラスチック素材に切り替えた。石油由来の素材を減らすコンビニ主力商品の環境対応で、消費財の脱石油素材の動きが活発化することが期待される。

**2.再生プラスチックの使用進む**

国際問題化する海洋プラスチックごみ（廃プラ）対策への関心が高まる中、ペットボトルやパウチなどのパッケージに再生プラスチック（MR-PET）を採用する動きが拡大している。MR-PET（メカニカルリサイクルペット）は、表面の汚れのほか、真空・高温化で不純物を除去し、本来の純度と機能を回復させて製品化している。2020年末までに100％再生ペットボトルへの切替えを目指している企業が増えている。

**3.消費税増税10%へ**

令和元年10月から消費税が10%に増税した。通常は標準税率10%が適用されるが、飲食料品や医薬品など一部の商品は、消費税増税後も8%に据え置かれた。そして飲料が入っている缶やペットボトル、精肉や鮮魚を販売する際のトレイ皿や、惣菜の容器などの包装材は、食品販売に欠かせないものとなるので、それらの包装材は飲食料品の一部として扱われ、軽減税率8%が適用された。この軽減税率の適用期間は発表されていない。

**4.レジ袋の有料化**

容器包装リサイクル法の省令改正（2019年12月）により、プラスチック製レジ袋はすべての小売店で2020年7月から有料化の義務づけを行う事になる。ただし、植物を原料にして作るバイオマスプラスチックを25％以上配合した袋や、海中で二酸化炭素や水に分解するもの、厚みが0.05mm以上で繰り返し使用出来るものは除外させる見込み。レジ袋の価格や売り上げの使い道は事業者が決定する。すでに、プラスチック製の袋から紙製の袋に切り替える小売店も出てきた。

**5.EU各国は使い捨てプラスチック製品の流通を2021年までに禁止する**

EU理事会は2019年5月21日、「特定プラスチック製品の環境負荷低減に関わる指令」を採択した。EU加盟国は2年後をめどに、この指令に対応した国内法を制定していく。禁止対象はストロー・はし・プレート・綿棒の軸・EPS製食品容器・オキソ分解性プラスチック製品などである。

また、EU加盟国は今回の指令で禁止とならない蓋つきのペットボトル等について、次の目標達成を目指すことで合意した。①回収率を2029年までに90%、②リサイクル材料含有率を2025年までに25%、2030年までに30%にする。

**6.食品衛生法改正でポジティブリスト制度導入への対応急がれる**

平成30年6月13日に公布された食品衛生法等の一部を改正する法律により、食品用器具・容器包装について、安全性を評価した物質のみ使用可能とするポジティブリスト（PL）制度の導入等が行なわれた。2020年6月の施行に向けて食品接触材料管理制度の運営主体設立やポジティブリスト記載の内容・様式を検討する準備委員会が設置され、ワーキンググループ（WG）による具体的な検討が始められた。WGのまとめた内容の説明会が実施された。2020年2月にはPL告示も行われる予定である。

**7.脱プラスチックの動き**

企業は環境に優しい新素材やプラスチック代替素材の開発に取り組んでいる。プラスチック素材メーカーは生分解性素材のストロー、カップなど食器具の材料開発を進めている。製紙メーカーは“ふやけないストロー”、“湿気や空気を通しにくい包装紙”の開発、欧米製紙各社でも“内面コーティングしない紙製コーヒーカップ”、“木繊維素材で生分解性のグリーンファイバーボトル”の開発が進んでいる。世界的な脱プラスチックの流れの中で、紙素材が期待を集めている。

**8.食品ロス削減の法制化**

食料の多くを海外からの輸入に頼る日本において、食品ロスが大きな社会問題となる中、2019年5月に食品ロス削減推進法が成立した。この法律によって、食べ物を無駄にしない意識の醸成とその定着が求められ、食品ロス削減を推進していくことになった。包装業界においては、廃棄物の発生抑制（リデュース）に繋がる包装資材や鮮度保持、内容物の分離性、小分け包装などの包材設計がより求められることになった。

**9.国内段ボール生産3年連続過去最高**

2019年の段ボール生産量は、全国段ボール工業組合連合会の確報統計によると1月から9月まで前年比100.2％だった。なお、10月から12月の四半期予測は100.3％と予測されている。このまま推移すれば前年比100.5％となる。2019年を含めた過去3年をみても前年比は2018年101.3％、2017年101.7％であり3年連続で前年比を上回る。2019年は、過去の段ボール生産の中で年間生産量の最も多かった2018年の143億9400万㎡を超え144億7128万㎡と予測され過去最高となる。

**10.ドローン運搬箱が日本パッケージングコンテスト2019で経済産業大臣賞受賞**

公益社団法人日本包装技術協会が主催する同コンテストで、産業用ドローンの運搬箱が経済産業大臣賞を受賞した。SDGsを考慮した包装設計の特徴（①副資材不要で廃棄物ゼロ　②製品・機能を集約し持ち運び点数を削減　③宅配利用可能）が高く評価された。

受賞作は10月10日・11日に開催された「暮らしの包装商品展2019」で展示され、来場者の注目を集めた。

## 北海道支部だより

北海道支部長　酒井 幸彦（36期）

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様は令和初めての新年いかがお過ごしでしょうか。

北海道は例年にない暖かさです、12月なのに雪ではなく雨が降るという天気です、まさに異常気象です。

この異常気象の影響かも知れませんが、我々包装資材を扱うメーカーにも影響があり秋の味覚の【サンマ】が昨年の半減、秋鮭も昨年8割との事で連動し資材も同じ状況で大打撃をこうむっております。一方農業は豊作となりジャガイモ、玉葱等は豊作の影響にて生産者にとって価格低迷にて一部廃棄もあり得るとの事です。

このような異常気象は本州での昨年、今年の大型台風の上陸により大変な被害を出しており、今後もこの状況が世界的に続くだろうとの予想もあり、温暖化が主な原因であるとの専門家の指摘もあります。

我々包装人にとって2020年は環境問題を常に念頭に入れながら、営業活動をしていかなければならないという非常に厳しい状況でありますが、2020年は東京オリンピックの年でもあり、特に北海道は札幌で男女マラソン、競歩等があり、ぜひ応援に行かなければと思っております。北海道に来て一緒に応援しましょう。又1月28日にはJPIとの共催で賀詞交歓会を開催いたします。

最後に会員皆様の益々のご発展、ご多幸をお祈りいたしております。

## 中部支部だより

中部支部長　岡部 智（27期）

**【第54期包装管理士講座：合格証書授与式】**

10月18日（金）、「第54期包装管理士合格証書授与式」が行われました。名古屋会場では、今年度79名の新包装管理士が誕生し、優秀合格者として銅賞を東海紙器㈱の加藤華子様が受賞されました。また、IPP中部支部より毎年恒例の「頑張ったで賞」を、トーホー工業㈱の井林徹様（輸送コース）と東海漬物㈱の長野雄平様（生活者コース）に贈呈しました。この賞は、合格を手にするために協力いただいた同僚や家族の方へ感謝の気持ちとして渡せるお菓子となっています。授与式には、IPP中部支部から吉沢知宏副支部長が出席し、新包装管理士へ管理士会の活動を紹介するとともに入会の勧誘を行いました。

優秀合格者（銅賞）表彰

「頑張ったで賞」の贈呈

**【2020年中部包装界賀詞交歓会】**

1月16日（木）、ホテルキャッスルプラザ「鳳凰の間」において、「2020年中部包装界賀詞交歓会」が開催されました。JPI・IPPの各会員のほか、関係官庁・関係諸団体・報道関係者など約140名が参加し、JPI中部支部長の齊藤光次様の挨拶、経済産業省中部経済産業局資源エネルギー環境部環境・リサイクル課長の片桐泰明様の来賓祝辞をいただいたあと、あいち産業科学技術総合センター所長の児島雅博様の乾杯で幕を開けました。恒例のお年玉抽選会では、IPP中部支部の運営委員が中心となって企画を行い、本年の干支である“ネズミ”にちなんだ趣向で大いに会が盛り上がりました。

JPI中部支部長・齊藤様の挨拶

お年玉抽選会の様子

## 関西支部だより

関西支部　細田 基則（13期）

令和元年も終わりとなりましたが、本年度もミニセミナーをはじめとする催しを進めています。令和2年も2月、3月にミニセミナーを予定していますので、関心のあるテーマがありましたら是非ご参加下さい。
昨年6月には企業見学会を開催しましたが（8月号で紹介済み）、本号では7月以降の催しの様子を紹介します。7月22日に開催しましたW会との合同研究会は今回が10周年となる記念の研究会でした。

◆第10回　W会との合同研究会　7月22日
〔W会：女性だけの包装研究会〕
「生分解性バイオマスフィルム“Nature Flex”とバリア特性」
講師：フタムラ化学㈱中部統括グループ　花市岳氏
「環境に優しいバリア素材“シールドプラス”について」
講師：日本製紙㈱新素材営業本部　内村元一氏

「花市講師」

「内村講師」

「会場風景」

「交流会にて」

◆ミニセミナーの開催
◇第41回　9月19日
「包装容器におけるCAEを用いたトラブル対策仕様の設計」
講師：アサヒビール㈱パッケージング技術研究所
樋口亮氏
「パッケージにおけるデジタル印刷の活用」
講師：㈱精工営業企画部　神田知恵氏

「樋口講師」

「神田講師」

「樋口講師と神田講師を囲んで交流会」

◇第42回　12月13日
「中食・小分けニーズの高まりに備えて包装・容器を考える」
講師：凸版印刷㈱商品企画部　上村功規氏
「金物の町から創り出す産業機械とは…」
講師：㈱三條機械製作所　大阪営業所長
小柳和義氏
機械本部　三條未来マシン研究所
田浦正博氏

「上森講師」

「小柳講師と田浦講師」

「交流会“ビールは旨かった！”」

「長崎運営委員の乾杯挨拶」

◆第54期包装管理士講座合格証授与式に協賛
◇10月25日　於：ハートンホテル北梅田

「祝辞を述べる桃川支部長」

「54期生と桃川支部長」

## 西日本支部だより

西日本支部　副支部長　上橋 健一（29期）

西日本支部は会員間の交流の場として、見学会、研究会、講演会などを主体とした活動を進めています。

西日本支部は会員減が続く厳しい状況ですが、JPI西日本支部殿と連携しながら、会員の皆様へ魅力ある企画を目指しています。

**◆特別講演会**

JPI西日本支部、日本MH協会、日本倉庫協会、九州包装資材協議会との共催事業で講演会を開催しました。

JPI包装技術研究所 平田様より、2015年の国連SDGs採択やパリ協定の発効以来、欧州を中心にプラスチック、とりわけ海洋プラスチックへの関心が高まりを受け、関係各省庁、団体の最新情報を含め、包装産業界の取り組みを解説していただきました。

・日　程：令和元年7月31日（水）13：00～14：30
・場　所：西鉄イン福岡
・テーマ：海洋プラスチック問題をめぐる国内外の動き
・講　師：JPI包装技術研究所　包装材料研究室長
　　平田成様
・参加者：36名

平田氏による講演の様子

**◆輸送・包装研究会**

JPI西日本支部、日本MH協会、福岡県倉庫協会との共催事業で「輸送・包装研究会」を開催しました。

㈱東洋紡パッケージング・プラン・サービス 羽馬様より、最近、話題となっている、軟質・硬質プラスチック廃棄物問題の主な最新の国内・海外動向（EU, グローバル企業）及びSDGsとの関係について、解説していただきました。

P8に続く→

P7から続く→

・日　程：令和元年10月18日（金）14：00～15：30
・場　所：西鉄イン福岡
・テーマ：プラスチック廃棄物問題の海外における最新動向について
（SDGs、海外の企業動向等）
・講　師：㈱東洋紡パッケージング・プラン・サービス
教育情報部　主任　羽馬友子氏
・参加者：14名

羽馬氏による講演の様子

**◆包装研究発表会**

JPI西日本支部との共催事業で「包装研究発表会」を開催しました。各社の先進的な研究成果が発表され、質疑が活発に行われました。

・日　程：令和元年11月1日（金）14：00～16：25
・場　所：西鉄イン福岡
・参加者：40名
・発表事例：
「レーザー加工技術を用いたユニバーサルデザイン包装袋の開発」
大日本印刷㈱　包装事業部
技術開発本部　軟包装技術第4部　筑後プロセス課
古賀 陽介氏
「大型ガラスを輸送する段ボール箱と緩衝材の開発」
㈱日東ディード 営業 牟 小磊氏
「セラミックス製高精度製品包装改善」
京セラ㈱　物流事業部　国内物流部　国分物流課
上園 剛史氏
「新形状による液晶モジュール用包装材の開発」
三菱電機ロジスティクス㈱　熊本事業所　運営課
包装技術係　吉村　公樹氏
「中国生産品の日本輸送に対するシートパレット導入について」
TOTO㈱　ウォシュレット開発第三部
包装・印刷物グループ　廣松　隆明氏
「トイレ内の化粧壁（前面板）包装仕様共通化による改善」
TOTO㈱　トイレ空間商品開発部
トイレ空間包装印刷物グループ
中嶋 和也氏（第54期包装管理士講座金賞受賞者）

発表の様子

**◆第54期 包装管理士合格証書授与式**

西日本会場では35名の包装管理士が誕生しました。授与式の後は懇親・交流会を開催しました。IPP西日本支部八田事務局長より、乾杯の挨拶をしていただきました。西日本支部の受講者は全員が合格したこと、合格証書を受け取り講座が修了したことで、終始和やかで笑顔があふれた交流会でした。

・日　程：令和元年11月1日（金）16：30～17：00
・場　所：西鉄イン福岡
・参加者：40名
・進　行：JPI　理事　園山洋一事務局長
挨拶、合格証書授与
包装管理士講座研修委員
岡崎義和氏（TOTO㈱）挨拶
IPP西日本支部　中村格勇支部長 挨拶

JPI理事　園山事務局長より
合格証書授与

包装管理士講座研修委員
岡崎氏挨拶

**◆今後の活動予定**

・見学会
・会員交流会

# 東北支部だより

東北支部　事務局長　斎藤 昇（13期）

天皇が変わりそのための各種行事も一段落したようですが、台風19号で被災され避難所生活を強いられた方々はまだまだ一段落とはいかないようです。以下に東北支部の活動を報告致します。

**●R1.9.19（火）**

見学会を実施（JPI東北生産性本部主催）デンソー福島、王子コンテナー福島工場を見学

見学会で王子コンテナー福島前

**●R1.11.7（木）**

54期包装管理士合格証書授与式、論文発表会、新包装管理士を囲む会を実施。今回の54期は東北支部受講者全員合格し、その中で成績優秀銀賞受賞者が1人でました。論文発表は12件発表後、JPI本部より園山事務局長（理事）と小橋氏をお迎えし合格証書授与と銀賞授与が行われました。その後場所を移動し新包装管理士を囲む会を開催しました。

優秀合格者（銀賞）表彰

54期合格者を囲む会集合写真

54期合格者を囲む会歓談風景

**●R1.11.21 ～ 22**

6年ぶりに全日本包装技術研究大会が仙台国際センターで開催されました。JPI東北の藤崎支部長の開会挨拶で始まり、前年度優秀発表者の表彰式後、特別講演会が行われました。その後1日目午後と2日目終日各部会毎に発表が行われました。支部からは発表者鈴木達也氏（東北ウエノ）コーディネーター鈴木支部長、服部理事が参加しました。

全日本包装技術研究大会　発表者の鈴木氏

全日本包装技術研究大会　コーディネーターの鈴木氏（右側）

全日本包装技術研究大会　コーディネーターの服部氏（左側）

P10に続く→

P9から続く→

●R2.1.16（木）

新春講演会と包装界新年会を開催しました。講演は写真家の茅原田哲郎氏が行い講演会後、藤崎支部長の挨拶があり山田運営委員長の乾杯の音頭で祝宴となりました。祝宴後半には抽選会となり中締めはIPP鈴木支部長が行い終幕となりました。

参加者での乾杯

## 関東支部だより

関東支部では、ツイッターで情報発信しています。

ツイッター　日本包装管理士会　検索

### 第54期包装管理士「東京会場合格証書授与式」

関東支部　事務局

2019年10月18日（金）、AP新橋において第54期包装管理士「東京会場合格証書授与式」が行われました。第54期の合格者は、全国で474名、東京会場では、237名の新包装管理士が誕生しました。合格証書授与式では、日本包装技術協会　園山理事から合格証書が授与され、大澤總弘研修委員長により優秀合格者が表彰されました。東京会場での優秀合格者は金賞：中嶋和也殿（TOTO㈱）、松原千枝殿（㈱資生堂）、銀賞：戸田太一殿（東芝ロジスティクス㈱）、松岡祥郎殿（キューピー㈱）、銅賞：神垣真哉殿（セイコーエプソン㈱）、前川由惟殿（丸美屋食品工業㈱）、末永咲恵殿（日本クロージャー㈱）の皆さまです。

その後、日本包装管理士会の古平篤関東支部長の来賓祝辞があり、道明誠副会長の乾杯の音頭により懇親会が行われました。包装管理士会理事のメンバーも加わり、大いに語り合いました。

優秀合格者（金賞）表彰

### 関東支部見学会報告

関東支部　理事　福野 壽史（16期）

今年度、第1回目の見学会を11月12日（火）に行いました。見学先は、雪印メグミルク（株）野田工場様。参加者は会員1名、非会員11名、幹事2名の計14名。東武アーバンライン「運河駅」に14時集合、参加者の方々は時間前には全員受付を済ませていました。いざ出発、タクシー乗場へ、ところが、空タクシーが来てくれません。20分程の待ち時間があり、ようやく見学先に到着しましたが約束の時間を10分程遅れてしまいました。工場長のご挨拶を受け、ビデオを見ながらの見学に際する説明を受け、女性説明員の先導で1時間ほどの工場見学の後、質疑応答の場を設けていただき、有意義な意見交換もできました。第2部の情報交換会では参加者5名と少なかったのですが名刺交換や自己アピールを介して良い雰囲気の懇親でした。今回は見学先が1社のみでしたが参加者の皆さま、それぞれのテーマや目的を持って参加いただいたようです。天候も良く、良い1日となりました。

雪印メグミルク（株）野田工場で

## スキルアップセミナー開催報告

関東支部　理事　大濱 健司（38期）

10月9日(金)文昌堂でダウ・ケミカル日本㈱　伊木綾乃氏による「素材が提供するパッケージ用途へのソリューション」のご講演を頂きました。参加者は13名。初めに会社の紹介があり、全世界でのポリエチレン樹脂のシェアーは8％、特にLLDPEは17%を保有している。食品包装から産業資材包装、医療、日用雑貨（オムツ等）多岐にわたって使用される。食品包装が廃棄され、海洋汚染（魚類への影響）が深刻化されている問題に対し、ダウ・ケミカルではリサイクルの推進を始めている。海洋汚染のマイクロプラスチック問題は漁業国日本としては無視できない問題であり、官民共同で取り組まなければならない命題であると思います。今回このようなグローバルな視点で貴重なお話を聞けたことに感謝したいです。

## “Wippl” 活動報告

関東支部　理事　大枝 麻由（51期）

“Wippl” は、関東支部の女性で包装管理士を取得した人たちで定期的に活動をしています。今年は東京パック開催期間中に、関西で20年以上も続いているW会（女性の為の包装管理士会）と合同でランチ会を実施し交流を深めました。10月には株式会社精工様にてつくば工場見学会を実施し、第一部で軟包装の一貫生産を見学、第二部ではDscoopの日本代表をされている林社長よりデジタル印刷ユーザー会の活動内容や世界各国の最新事例などをご紹介いただきました。第三部では “Wippl” のメンバーから自社の女性活躍推進活動に関してお話し頂き、その後、自己紹介や自身の働き方について話し合いました。その他、定期的に懇親会や忘年会なども開催しています。“Wippl” のメンバーはいつでも加盟可能で入会金や会費などは不要です。ご興味がございましたら、いつでもご連絡ください。

## SDGs 理事研修会開催

関東支部　理事　須藤 貴行（31期）

去る11月4日3連休最後の月曜日AM ９：30より東京都中央区の京橋区民プラザにて関東支部の11月度理事会を拡大して、関東支部50周年プロジェクトからの提案による理事研修会が行われました。テーマは最近話題となっている「SDGs」についての勉強会。道明理事より「SDGsの概要」、朝倉理事よりご自身の仕事上での「SDGsに取り組む地域の中堅・中小企業のための支援策」、須藤理事(小生)から小学4年生の娘に夏休みの自由研究に「SDGs」について取り組ませたことから「小中学校の教育現場でのSDGsの達成に資する取組みについて、各理事ともパワーポイント等の資料を交えて平易に「SDGs」に関してのレクチャーを行いました。改めてSDGsに対しての理解が深まり、有意義な研修会であったと思います。

## IPP写真研究会　活動報告

IPP写真研究会会長　荒牧 哲（23期）

当研究会は写真を通じて楽しさを共有する集まりで、会員数は2019年末で16名です。

関東支部からの活動支援金と研究会費で運営し、2019年後半は次の行事を開催しました。

7月25日（木）～ 30日（火）、横浜山手234番館で「第15回愉しい写真展」を開催。13名のA3サイズ作品39点を展示。28日に講師から講評を受けた後、港の夜景が美しいポートヒル横浜で恒例の祝賀パーティを行いました。

9月29日（日）、東京駅・皇居周辺撮影会を開催。6名参加。夕方、学士会館内のクラシックなレストランで懇親会を行いました。

10月19日（土）、RAW現像勉強会を日比谷図書文化館セミナールームで開催。5名参加。講師よりデジタル写真の基礎やRAW現像で何ができるか、デモを交えた説明を受け、当日朝に撮影したデータを現像しました。午後、有楽町のドイツ料理レストランでドイツビールフェアを楽しみました。

12月10日（火）、JPIロビーに各会員の2019年ベストワン作品を展示。1月29日（水）終了。

年度後半の行事として引き続き、2020年2月1日（土）にアサヒビール本社ゲストルームで総会・小写真展・新年会、2月～ 3月に泊りがけの撮影旅行を行います。

研究会に参加してみたいという方はIPP事務局へメールをください。

RAW現像勉強会での質疑応答風景

## 「第3回 IPPコミュニ亭」を開催

関東支部　副支部長　道明 誠（23期）

人と人をつなげる異業種交流企画「IPPコミュニ亭」も3回目となり、参加者総勢30名の大交流会となりました。R1.11.2（土）秋空のもと、多くの方が初対面で名刺交換を行い、新たな人脈づくりや包装業界だけではない交流「遠くの知」を知る有益な機会となりました。管理士の皆様、次回の参加をお待ちしています。

最上級のお肉、野菜、ワイン飲み放題、食べ放題のBBQ企画
東京・板橋区で開催

赤坂陽光ホテルで、2019年忘年会（R1.12.5）

## 編　集　後　記

今回の128号は、中部支部50周年記念のお祝い号となりました。半世紀にわたるご活動おめでとうございました。また、20年もの永きにわたりippニュースの編集をしてこられた荒井拓哉様、心からお疲れ様と申し上げたいと存じます。私(道明)は編集初心者なので、いたらぬ点多々あります。会員の皆様あたたかい目でご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

道明　誠（23期）


## 日本包装管理士会 / Institute of Packaging Professionals, Japan

*e-mail: ipp@pk9.so-net.ne.jp*
*http://www.ippj.net/*

| | | | |
|---|---|---|---|
| ■本　部 | 〒104-0045 | 東京都中央区築地４－１－１ 東劇ビル１０Ｆ<br>日本包装技術協会内 | ☎：03-3543-9250<br>fax：03-3543-8970 |
| ■北海道支部 | 〒060-0004 | 札幌市中央区北一条西２丁目 北海道経済センタービル<br>北海道生産性本部内 | ☎：011-241-8591<br>fax：011-241-3898 |
| ■東北支部 | 〒021-0893 | 岩手県一関市地主町３－３５<br>株式会社　東北ウエノ内 | ☎：0191-21-4531<br>fax：0191-21-5381 |
| ■関東支部 | 〒104-0045 | 東京都中央区築地４－１－１ 東劇ビル１０Ｆ<br>日本包装技術協会内 | ☎：03-3543-9250<br>fax：03-3543-8970 |
| ■中部支部 | 〒450-0003 | 名古屋市中村区名駅南４－１２－１７日通ビル２Ｆ<br>日本包装技術協会内 | ☎：052-563-7110<br>fax：052-563-7123 |
| ■関西支部 | 〒550-0014 | 大阪市西区北堀江１－１－27 イマイビル４階 | ☎：090-4305-3906（携帯・桃川）<br>fax：06-6606-8768 |
| ■西日本支部 | 〒838-0068 | 福岡県朝倉市甘木2144－11<br>中村包装管理士事務所内 | ☎：0946-22-3798<br>携帯：080-5263-2144 |


Copy & FAX 用切取線

### 日本包装管理士会会員登録データ変更届

■宛先　日本包装管理士会事務局　ｆａｘ：０３－３５４３－８９７０　☎：０３－３５４３－９２５０

| | | |
|---|---|---|
| フリガナ<br>氏　名 | 会員番号　　番　令和　　年　　月　　日届 | |
| 会社 | 社　名<br>所　属<br>住　所　〒<br>ＴＥＬ　　ＦＡＸ<br>Ｅ－mail | |
| 自宅 | 住　所　〒<br>ＴＥＬ　　ＦＡＸ<br>Ｅ－mail | |